USPTO、意匠審査官向けのAIを活用した新たな画像検索ツールの導入を公表

2025年7月18日
JETRO NY 知的財産部
蛭田、赤木

USPTOは、7月17日、AIを活用した新たな画像検索ツール「DesignVision」を意匠（デザイン特許）審査において使用する予定であると公表した[1]。このツールは、AIを活用した初めての画像検索ツールとして、より効率的・効果的な先行デザイン調査の実施を目的に意匠審査官向けに提供される。

「DesignVision」は、米国内の登録意匠や商標のみならず、世界知的所有権機関（WIPO）や欧州連合知的財産庁（EUIPO）など80以上の米国外の知財庁・機関における登録意匠も対象として、単一の検索インタフェースにおいて近似性に基づく画像検索を可能とする。また、画像検索の際に特徴づけ（特定の要素を強調して検索）を行う機能やテキスト・分類で検索結果をフィルタリングする機能も有する。

そして、各審査官による「DesignVision」を用いた検索情報は、該当案件の出願記録（the application file）に登録されることになる[2]。具体的には、どのような画像を用いてどのようなフィルタリングにより検索を行ったか、またその検索結果に関する情報が登録される。

USPTOにおける意匠の審査待ち件数は、2024年度まで増加していたものの、その後減少傾向にあり2025年6月時点で77,617件となっている。

USPTOにおける意匠の審査待ち件数[3]

時期	審査待ち件数
2021年度	72,313件
2022年度	74,955件
2023年度	79,696件
2024年度	81,839件
2025年度（6月時点）	77,617件

USPTOは、本「DesignVision」の活用と併せて意匠審査官の新規採用を継続的に実施することにより審査待ちの出願件数をさらに減少させたいとしている。また、この画像検索ツールを将来的には特許審査官も活用できるようにする予定であるとしている。

（以上）

---

[1] USPTO launches new design patent examination AI tool (July 17, 2025)
https://www.uspto.gov/sites/default/files/documents/og-designvision-2025-07-16.pdf

[2] Manual of Patent Examining Procedure (MPEP), section 719.05

[3] USPTOウェブサイト”Design Data June 2025”参照。